

第5回陸側遮水壁タスクフォース議事概要

日時:平成25年12月3日(火)13:30~15:30

場所:経済産業省 別館10階 各省庁1031共用会議室

出席者:大西主査、赤川委員、石川委員、伊藤委員、井尻委員代理、藤田委員、東京電力、鹿島建設、吉田審議官、新川 原子力発電所事故収束対応室長

議事概要:

1. 基本設計について東京電力、鹿島建設より説明。

<基本設計についての主なコメント>

- ・アイスレンズ形成を含め、地層の凍結時の挙動については、FS事業にて確認することのだが、粗粒・細粒砂岩層下位の泥岩層まで根入れするという方針は、FS事業での確認如何という条件付きなのか。(藤田委員)
- ・アイスレンズの影響については、汚染水の濃度を把握した上で核種移行解析を行う等、汚染拡散についての評価等を行った上で対策を検討する。(東京電力)
- ・凍土融解時の透水性の変化を想定した解析は行っているのか。(大西主査)
- ・現時点では行っていない。FS事業の中で検討したい。(東京電力)
- ・地下埋設物の中を流れる水は凍結可能なのか。(吉田審議官)
- ・埋設物中を流れる滞留水についても凍結可能となる施工方法をとる。(鹿島建設)
- ・検討している凍結状況の確認方法では判断できず、凍土閉合区域内へ地下水流入が生じてしまう場合はどのような対処をするのか(吉田審議官)
- ・現状では温度計測、水位観測、ブラインの戻り温度によって凍結状況を確認することとしている。凍結の不具合により地下水流入が生じる場合、対策としてはグラウト注入等で地下水流速を抑制し凍土造成を促進する計画としている。(鹿島建設)

2. フィージビリティ・スタディの検討状況について鹿島建設より説明。

<フィージビリティ・スタディの検討状況についての主なコメント>

- ・FS事業では凍結順序の違いによる影響把握は行わないのか。(伊藤委員)
- ・FS事業では4辺一度に凍結させる予定。大規模凍土壁整備実証事業においては、局所的に地下水流速が速い場所があった場合に、その箇所を先行して凍結させるということは考えられる。(鹿島建設)

- ・FS事業で行う試験、事前／事後解析は重要であるが、実際の凍土壁閉合域内でのリチャージ特性を把握する際には、どのように境界条件を設定するなど検討する必要がある。どの結果をどのように活用するかを含め、リチャージによる水位管理方法を検討すべき。(藤田委員)
- ・リチャージによる水位管理について、目詰まり時の対策はもちろんのこと、その対策の効果が現れる時間も考慮した上で、幅を持たせた基準値での水位管理を行ってほしい。(吉田審議官)

以上